

金沢美術工芸大学 開学70周年記念

「芳崖四天王」と称された、知られざる画家・高屋肖哲の画業と研鑽の軌跡。

平成28年度 春季特別企画展

高屋肖哲

TAKAYA SYOTETSU

—模写・資料から見る画家の絵画学習と研鑽—

会期 : 平成28年4月11日(月)～15日(金)
開場時間 : 11日(月) 12:00-13:00 (特別開場)
: 12日(火) 14:30-15:30 (特別開場)
: 13日(水)～15日(金) 12:00-18:00
場所 : 金沢美術工芸大学大学院棟 展示室
主催 : 金沢美術工芸大学 美術工芸研究所
入場 : 無料

金沢美術工芸大学
美術工芸研究所

Research Institute of Art and Design

石川県金沢市小立野5丁目11番1号 076-262-3519

而シテ 世ニ知ラレズ

高屋至肖哲

高屋肖哲(一八六六―一九四五)は慶應二年、岐阜県に生まれます。一九歳で上京し、狩野芳崖に師事。芳崖の死後は東京美術学校に入学し、卒業後は石川県工業学校に務めました。その後、東京美術学校図案科助教となりますが、後年は各地を放浪しながら仏教美術研究に没頭しました。

肖哲は「芳崖四天王」と称されるほどの実力を持ちながら、画家として高い名声を得ることはありませんでした。しかし、残された模写、写生図、下図類からは江戸末期から明治期を生きた肖哲の研鑽や制作姿勢をうかがい知ることが出来ます。平成九年から平成十二年にかけて行われた、金沢美術工芸大学美術工芸研究所共同プロジェクト「高屋肖哲の絵画資料研究」において、本資料の大々的な調査・整理が行われ、これらの資料は本学に寄贈されることとなりました。

美術工芸研究所ではこれまで、この高屋肖哲資料の整理と研究を行ってきました。資料のうち、公開できるものはまだ半数ですが、整理と研究を今後も継続していく予定であります。

また、肖哲は近年研究が進められており、今後、注目度の高い画家であります。本展では肖哲の再評価を試みると共に、肖哲の下図、模本から見る近世末の表現の魅力、面白さについて感じていただければ幸いです。



【出品作品】(予定)

- 『雑事抄録』(抄録1~37)
 - 「歴史場面図」(歴史人物-8)
 - 「病草子模写」(絵画模写-7)
 - 「鳥獸戯画模写」(絵巻模写-4)
 - 「後三年絵巻模写」(絵画模写-18)
 - 「奥州日光写生図」(写生旅行記-2)等
- ※出品作品は変更となる場合がございます。

金沢美術工芸大学 美術工芸研究所

KANAZAWA COLLEGE OF ART
Research Institute of Art and Design

交通アクセス

* 大学には駐車場がありません。
お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

バス(北越バス)

JR 金沢駅バスターミナルから次の系統のバスにご乗車いただき小立野バス停下車(乗車約25分、下車後徒歩約8分)

- 東口バスターミナル3番のりば: 11番系統、12番系統、16番系統
- 東口バスターミナル6番のりば: 13番系統、14番系統
- 西口バスターミナル5番のりば: 10番系統

タクシー JR 金沢駅から約20分



「予告」
此出「レクミン」
香の企画
「屏風と軸」

詳細はお問い合わせください。